

医学系研究科 医科学専攻

学位プログラム： 死因究明学

授与する学位： 修士（公衆衛生学）

教育目標

死因究明学は、新しく創造する分野で、大阪大学が初めて設置致しました。死因についてその診断をはじめとして死亡機序の解明に始まり、死因統計からの医療のアウトカム評価まで視野に入れた学問分野です。

わが国が世界に先んじて迎える多死社会や今後の大規模災害発生の可能性を踏まえ、死因の究明を推進する重要性はますます高まっています。しかしながら、死因究明の任にあたる専門家は極めて少なく、実際には臨床医が従事しているのが現状です。また、死因究明に携わる人々は、医師のみならず、個人識別で重要な役割を果たす歯科医師、薬毒物分析を担う薬剤師、CTやMRI等の画像検査を担う放射線技師、各種検査を担う臨床検査技師等の医療関係者、公衆衛生に従事する保健師、看護師、ご遺体に接する警察官や科捜研研究員、死に関係する訴訟等を担う裁判官、検察官、弁護士の法曹関係者、死因調査をする保険調査員、保健行政の関係者等、多くの方が死因について系統だった知識の教授がなされていませんでした。もちろん、死因究明に関わる学問領域として、病理学、法医学等がありますが、いずれもそれぞれの専門分野の業務量が膨大になり、死因究明全体の向上が難しい状態となっています。

そのような背景と死因究明の重要性から、死因究明制度を抜本的に見直す「死因・身元調査法」と「死因究明等推進法」が、平成24年に成立しました。

医学系研究科修士課程医科学専攻では、そのような社会の状況から、死因究明学という学問領域に貢献するため、平成27年度に「死因究明学コース」を設置しました。

医学系研究科修士課程医科学専攻（死因究明学コース）では、世界の死因究明学をリードし、人類の健康・福祉に貢献するという志のもとに、死因究明実務を行い、新しい学問領域である死因究明学の推進、及び、人類の健康・福祉に貢献できる高度な倫理観と、深い教養に裏づけられた創造性豊かな死因究明を担う人材の育成をめざします。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

死因究明学の研究や実務を自立して行うに必要な能力および、その基礎となる豊かな学識、高度な倫理観、深い教養に裏づけられた創造性を豊かにする。

○高度な教養

死因究明をするには国際死因分類における1万数千あまりの死因についての所見や機序について理解し、その個人的背景、社会的背景、そして社会制度について理解することができる。

○**高度な国際性**

国際的な視野を持ち、世界で起こる死に関する諸問題を、死因究明学の知識と自然科学や社会科学の方法論により対処できる。

○**高度なデザイン力**

死因究明の制度設計や死因診断基準等の策定プロセスを学び、かつ提案する力を身に付ける。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

大阪大学および医学系研究科のディプロマ・ポリシーのもと、学位プログラム「死因究明学」では、教育目標に定める人材を育成するため、2年以上在学して34単位修得し、必要な研究指導を受けた上で、修士論文審査及び試験に合格し、次のとおり医学研究に必要な高度な倫理観と、優れた知識・能力、国際性を身につけている学生に修士（公衆衛生学）の学位を授与します。

○最先端かつ高度な専門性と深い学識

- ・幅広い医学の基礎知識と、最先端の医学研究に裏付けられた死因究明学の深い知識を有している。
- ・死因究明学の知識を自然科学や人文・社会科学の方法論により、死因に関する諸問題解決のために活用できる能力を身につけている。

○高度な教養

- ・死因究明学の研究に必要な優れた目的意識と高度な倫理感を備え、死因究明学の研究に真摯に取り組む姿勢を身につけている。
- ・物事を多角的、且つ、広い視野で見ることができ、柔軟に思考できる能力を身につけている。

○高度な国際性

- ・自国と他国の文化、制度、社会経済状況、習慣等を理解した上で、世界の死亡に関する諸問題を理解できる。

○高度なデザイン力

- ・身につけた知識や技術を基に自由に発想し、表現できる能力を身につけている。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大阪大学のおよび医学系研究科のカリキュラム・ポリシーのもと、学位プログラム「死因究明学」では、学位授与の方針に掲げる高度な知識・技能を修得させるために、教育課程を体系的に編成、実施しています。

また、授業科目における成績評価は、厳格に行われ、その評価は、知識・技能、それらを発展・活用できる能力の習得度によって評価します。

<教育課程編成の考え方>

医学研究においては、高度な倫理観を持つことが必須であり、さらに、安全に研究を遂行する知識や能力を身につけることは非常に重要です。死因究明学専攻では、入学後すぐに、医学研究に必要な高度な倫理観と、安全に研究を行うための知識を身につけることを目的として「機器セミナー」を必修科目として配置しています。

1年次1学期の約1カ月の間は、医学以外の学部出身者が、幅広い医学の基礎知識を身につけ、最先端の医学研究に触れることを目的として、概論科目を必修科目として配置しています。概論科目は、医学部の出身者においても、身につけている医学の基礎知識を整理すると同時に、最先端の医学研究に触れることによって、知識をさらに深めることを目的としています。

<学修内容及び学修方法>

- 概論科目が終了後、死因究明に必要な死因診断の基礎知識を身につけることを目的として、死因診断学科目を必修（一部は選択必修）科目として配置し、併せて、死亡時画像診断の基礎知識を身につける死後画像診断学科目を必修科目として配置しています。
- 1年次2学期には、希望する社会医学の講座に配属され、指導教員による研究指導が始まります。1年次の研究指導では、物事を多角的、且つ、広い視野をもって柔軟に思考できる能力、コミュニケーション能力、死因診断学の知識を活用できる能力を身につけます。
- 1年次の2学期から、広い視野をもって柔軟に思考できる能力を身につけることを目的として、医学に関連する様々な選択科目を配置しています。
- 2年次では、専門分野における専門的知識と理解と実践を身につけることを目的として、特論科目と死因診断学実地演習、死後画像診断学演習を必修科目として配置しています。
- 2年次の研究指導は、死因究明に関する知識の活用能力を高めるために、死因究明学についての研究を行い、その結果を修士論文としてまとめられるよう研究指導を行います。

<学修成果の評価方法>

学修の成果は、シラバスに記載された学習目標を試験、レポートにより、その達成度を評価します。また、修士学位論文の審査について、次に定める事項に基づき、

- ・ 論文内容

- ・ 研究発表能力
- ・ 質疑応答能力

で評価します。

学位プログラムにおけるカリキュラムマップ（修士課程 死因究明学プログラム）

	最先端かつ高度な専門性	高度な教養	高度な国際性	高度なデザイン	1年				2年				
					春学期	夏学期	秋学期	冬学期	春学期	夏学期	秋学期	冬学期	
幅広い医学の基礎知識と、最先端の医学研究に裏付けられた死因究明学の深い知識を有している。	○				医科学概論I, II	環境健康リスク論 経済学・経営学の基礎理論 医学研究倫理総論		医療経済・経営入門	人体系統解剖学実習				
死因究明学の研究に必要な確れた目的意識と高度な倫理感を備え、死因究明学の研究に真摯に取り組む姿勢を身につけている。		○			死因究明学セミナー I				死因究明学セミナー II				
死因究明学の知識を自然科学や人文・社会科学の方法論により、死因に関する諸問題解決のために活用できる能力を身につけている。	○	○		○	疫学総論 医学統計学総論 医療経済産業政策学総論	疫学各論	疫学統計学各論 医療経済産業政策学各論	疫学フィールド実習 環境健康フィールド実習					
物事を多角的、目づ、広い視野で見ることができ、柔軟に思考できる能力を身につけている。				○	行動医学・健康科学 医療・法・裁判 I	死因診断学総論 I 死因診断学各論 I 死後画像診断学総論 医療安全・クオリティマホーン 医療倫理概論 スポーツ健康医	死因診断学各論 II	高度教養教育科目 医療・法・裁判 II	死後画像診断学各論	死因診断学実地演習	死後画像診断学演習		
身につけた知識や技術を自由に発想し、表現できる能力を身につけている。				○			法臨床医学						
自国と他国の文化、制度、社会経済状況、習慣等を理解した上で、世界の死亡に関する諸問題を理解できる。		○	○		死因究明学概論				死因究明学セミナー III				
						国際健康政策学 ライフサイエンスの倫理と公共政策学 国際感染症学	グローバルヘルス学総論			死因究明学セミナー IV			

- 必修科目
- 選択必修科目
- 高度教養教育科目
- 高度国際性涵養教育科目